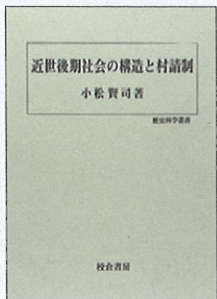


# 学内教員著作寄贈図書

ここに紹介する図書は、すべて新館2F「福島大学教員著作物コーナー」にあります。



## 近世後期社会の構造と村請制

小松賢司 著  
校倉書房, 2014.4  
(歴史科学叢書)

210.5  
Ko61k

本書は、日本近世史に関する私のこれまでの研究をまとめたものである。近世とは、一般的に江戸時代と呼ばれる約250年間のことであり、近世後期とは、18世紀中頃から、江戸幕府が崩壊する19世紀中頃までの約100年間を

指す。この時代には、近代への転換を生みだした様々な社会の変動・変容が見られ、その評価をめぐっては、これまでに多くの研究が積み重ねられてきた。本書はそれら先行研究を整理し、現段階で求められる研究視角を確認したうえで、個別具体的な事例研究を展開し、近世後期社会に新たな評価を与えることを目指したものである。

研究の現状や視角について興味関心のある方は、本書の序章をお読みいただきたい。本論の1～8章は史料分析に基づく実証研究であり、日本史を専門としない方には少々読みづらいただろう。しかし本書を通読すれば、社会の細部に起きた一見些末な事象から描き出される、リアリティーあふれる歴史像の面白さを実感できるはずである。(小松賢司)



## 福島に農林漁業をとり戻す

濱田武士, 小山良太,  
早尻正宏 著  
みすず書房 2015.3

095.4  
H22f

東日本大震災にともなう福島原発事故から2016年で6年目に入る。被害の範囲も責任もあいまいなまま、原発災害の苦しみは続く。現在、福島の米や野菜から放射能はほとんど検出されず、海水の放射能含有量は事故前に戻ったが、風評被害は残る。本書は、農・林・漁業の経済学を専門とする研究者が、なりわいの再生という難問に取り組んだ。3人は北海道大学農学部・水産学部の先輩後輩であり、それぞれ東京海洋大、福島大学、山形大学で漁業、

農業、林業の研究を行ってきた。それが震災で一つの課題を共有することになった。山に大地に海に降り注いだ放射性物質は循環するため、農・林・漁業をつなぐ視点は欠かせない。現場にかかわりながら、歴史・実態・政策を分析、この間に蓄積された科学的知見に立って提言した。県産米全袋のセシウム検査。原発汚染水問題と漁業再開のゆくえ。避難者を呼び戻すきめ手となる森林除染。集落の維持と雇用創出。再び安全な食材の産地を掲げるための道筋。福島の各地でさまざまな「協同」の力がはたらいっている。ふるさとをあきらめない人、自然と共に生きてきた人、ここで復興するしかない人々がいる。福島に農林漁業をとり戻すとは、人と自然の営みを、地域と産業を再生することだ。長い闘いの先に、復興が見えてくる。それを支えるのは、同じ国土に生き、社会経済に原発を組みこんできた私たちみんなの問題である。(小山良太)

〈2016年度 日本協同組合学会学術賞受賞〉



## 裏磐梯・猪苗代地域の環境学

Environmental study in  
URABANDAI-INAWASHIRO area

塘 忠顕 編著  
福島大学磐梯朝日  
遷移プロジェクト  
2016.3

095.1  
Ts94u

青、瑠璃、赤など様々な色の沼からなる五色沼湖沼群、標高500m以上の高所にあり、透明度が高いため天鏡湖の別名をもつ猪苗代湖など、裏磐梯・猪苗代地域は素晴らしい景観と自然環境が楽しめる福島県内有数の観光地です。しかし、この景観と自然環境は自然や人間による影響で変

化しつつあり、それを良好に維持・保全するためには解決すべき様々な問題があります。本書はこれらの問題の原因解明と解決策提示を目指し、文部科学省の支援を受けて実施したプロジェクト研究の成果をまとめたものです。

プロジェクトのメンバーが、地域の住民や行政等と連携をはかりながら、地域の自然環境に関するデータを収集し、それらに基づき、地域の自然環境を維持・保全するための提言を示しました。また、猪苗代湖湖底堆積物から読み解いた猪苗代湖形成史、磐梯山周辺の今後100年間の気温上昇予測、裏磐梯地域の生物多様性の実態、昆沙門沼が青色を呈する原因物質に関する新事実など、理系の学生や自然に興味がある方に楽しんで頂ける内容も含まれます。(塘 忠顕)